

畑違い、トマト評判上々

建設業ソネックが農業参入

担い手不足に悩む農業の活性化や地域の盛り上げに一役買えないかと、高砂市の建設業ソネック（曾根町）が新規事業として農業を始めた。昨秋、資材置き場だった同市中筋3にビニールハウスを建てて農場「熱血アグリ事業部。」を立ち上げた。霧状の肥料を根に直接吹きかける栽培方法で、中玉トマト「霧の恵」を育てる。県立農業高校（加古川市）の卒業生らを雇い、働く場の創出という地域貢献も見込む。

（中川 恵）

水や肥料 根に直接噴霧

高 砂 同社は10年ほど前から資材置き場の新たな使い道を考えていた。周辺は建築制限が厳しい「市街化調整区域」。本業で縁のあった産業用スプレーノズルメーカー「いけうち」（大阪市）が西脇市でトマトを栽培する様子を見学し、農業参入を具体化させた。

昨年1月、農業法人などでの勤務経験がある上村礼孝さん（37）＝神戸市＝を社員に迎え、ハウスや資材の準備を始めた。4月には県農を卒業したばかりの杉山優奈さん（19）＝加古川市＝が「新規事業の立ち上げメンバーになれるなんて。行くしかない」と加わった。

苗の根に直接養分を含んだ霧を吹きかける「噴霧水耕栽培」を採用する。ハウスは軒が高く、熱い空気が上に逃げるようにした。栽培棚の間にレールを敷き、棚の高さを上げるなど作業性を高めた。10月には2500平方メートルに約2万本の中玉トマト「フルティカ」の苗を植えた。赤くつややかで、うまみが凝縮したトマトの評判は上々。杉山さんは「思った以上に収穫が

県立農業高校を卒業し、ソネックでトマト栽培に携わる杉山優奈さん



多くて、植物の管理作業が追いつかない」と苦笑いする。

同社取締役で「熱血部長」の大内豊範さん（52）は「おいしいトマトを作って地域の皆さんに喜んでもらうのが大きな目的」と言う。当面は、事業存続のために年間経費をまかなえるだけの利益を求める。この姿勢には上村さんも「異業種からの農業参入は、簡単にもうかるとわれがちなのに」と驚いたという。大内さんは「正直、事業とはいえないかもしれない。ただ、将来的には周辺に観光農園とか直売所ができて、高砂市の観光資源としてにぎわったら」と夢を語る。

高砂市内のセブンーイレブン一部店舗、ヤマダストアー全店、道の駅みき（三木市）、神戸・元町商店街の青果店「元町マルシェ」などで購入できる。農場では火曜日の午前10時～正午に直売も行う（1袋500円）。最新情報は公式インスタグラム（@nekketu_agri_zigyoubu）で発信する。熱血アグリ事業部。☎079・441・7373



「味には自信を持っています」と話すソネックの上村礼孝さん＝いずれも高砂市中筋3



トマトは肥料を霧状にして根に吹きかける「噴霧水耕」で栽培する